

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	3970400200
法人名	有限会社 ライフ
事業所名	グループホーム レッツ
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年12月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3970400200		
法人名	有限会社 ライフ		
事業所名	グループホーム レッツ		
所在地 (電話番号)	南国市立田1544番地2 (電話)088-880-6100		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年5月1日

## 【情報提供票より】(19年11月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.4

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / ■ 単独		新築 / ■ 改築	
建物構造	鉄骨・木造り			
	木	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分
	鉄骨	2 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~35,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円	
敷金	有( ) 円 / ■ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 / ■ 無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	58 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 レザレクト 藤川クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に民家改造型で開設されたグループホームで、北方には田園が広がり、民家と隣接しているため、地域との交流もある。「笑顔」「尊敬」を理念としたサービスが開設以来継続されており、利用者、職員共に穏やかな雰囲気が印象的である。自己評価では、グループホームの取り組みの現状を率直に評価し、外部評価については口頭で確認された事項についても改善計画を策定するなど、より質の高いサービス提供への意図と取り組みが窺われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の主な改善課題については、評価報告書の改善点のみでなく、口頭で確認された事項についても職員全員で話し合い、改善計画を策定し、改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義を十分に理解して取り組んでおり、日常の話し合いの中で、気づきや意見を出しあい、今までの実践を真摯に振り返って自己評価を作成している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、地域代表、行政、事業所代表が参加し、グループホームからの報告、介護保険の現状や課題、地域の状況などについて、一方的な説明に終始することなく、自由に意見交換ができる場となるように努めている。自己評価、外部評価についても改善計画の取り組み状況を会議で報告し、会議メンバーの意見も取り入れ、サービス向上に活かせるように努めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情箱を設置したり、2カ月に1回家族会を開催し家族からの聞き取りをするなど働きかけはしているが、家族からの苦情は出ていない。グループホームのサービスの質の向上を図るには家族等の意見や苦情が良いきっかけとなるため、家族からの意見や苦情が出易くなるような方法で取り組まれることを期待する。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、清掃活動、お祭り、防災訓練等に参加している。また、地域の人と相談し、手作りで「飛び出し注意」の看板を設置したりして交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 開所当初から事業所独自の理念を掲げている。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容で地域の中に自然に溶け込んでいるグループホームであるが、地域密着型サービスとしての役割が理念のなかに盛り込まれていない。	○	自然に地域に溶け込んでいるグループホームであるので、日々の活動の中で果たしている地域密着型サービスとしての役割を理念の中に盛り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 毎日の申し送り時や月1回の職員会で、利用者本位のサービスを念頭に置いた話し合いがなされており、職員は理念を口ずさむことができるくらい意識づけは徹底されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 利用者に目線を合わせ、笑顔で対応し、利用者のその時その時を大切にしよう、言葉掛けや接し方に配慮している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 参加できる利用者と一緒に、清掃活動、お祭り、防災訓練等に参加している。また、地域の人と相談し、手作り「飛び出し注意」の看板を設置するなど交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 管理者及び職員は評価の意義を十分に理解しており、日常の話し合いの中で、気づきや意見を出し、その意見と今までの実践を振り返って、自己評価を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 外部評価の結果については職員全員で話し合い、評価報告書の改善点のみでなく、口頭で確認された事項についても改善計画を策定し、改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 利用者、家族、地域代表、行政、事業所代表が参加し開催している。グループホームからの報告、介護保険の現状や課題、地域の状況などについて、一方的な説明に終始することなく、自由に意見交換ができる場となるように努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 自己評価、外部評価については改善計画の取り組み状況を会議で報告し、会議メンバーの意見も取り入れ、サービス向上に活かせるように努めている。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 折に触れ、市の担当窓口を訪問して助言、指導を受けている。また、グループホームで開催する講演会への参加やボランティアの紹介を市の担当者に要請するなどして交流を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 面会の家族には声掛けで、来訪出来ない家族には電話で、本人及び家族の状況を話し合っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 担当者が毎月1回、個別近況報告書「田園」で利用者の暮らしぶりを家族に知らせている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 利用者の状況に変化があるときは家族にその都度連絡し個別日誌や業務日誌に記録している。また、必要な場合には事故報告書も作成している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 本人が財布を所有して管理している利用者が3～4人いるが、原則として、金銭はグループホームが立て替え、月1回領収書と請求書を家族に送付して精算している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 2ヶ月に1回家族会が開催され、半数の家族がグループホームの行事に参加しているが、家族同士が話し合う機会にはなっていない。  <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 苦情はサービスを見直す良い機会であるとの考えの基に苦情箱を設置しているが、家族からの苦情は出ていない。サービスの質の向上を目指すため、運営推進会議や家族からの意見の聴取等を行っている。	○	苦情箱を設置したり、家族からの聞き取りをするなどの働きかけはしているが、苦情が寄せられていないのが現状である。家族等の意見や苦情はグループホームのサービスの質を向上させる良いきっかけとなるものであり、家族会を活用するなど、家族等からの意見や苦情が出やすくなるような仕組みづくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 10月末に開所当初からの管理者が退職したが、職員が気持ちを一つにして、今までの支援を継続するように取り組んでいる。基本的に、職員の異動はできるだけ少なくするように配慮している。  <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 引継ぎの期間を15日程度取りスムーズに移行している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 事業所で年間研修計画を立て、参加費用を負担し、研修当日を日勤扱いとするなど研修を受けやすい体制を取っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 月1回の職員会で研修内容の伝達講習を行うとともに研修報告書を作成し、いつでも閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。  <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 運営者は同業者の横のつながりを大切にしており、地域の他のグループホームとの勉強会等に参加し、職員のサービスや質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入所申込時には家族からの聞き取りを行っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 昼食やおやつの時間にグループホームの見学をしてもらい、少しでも一緒に過ごせる時間を体験できるようにしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。  利用者が出来ることは優先して行ってもらうようにしており、声かけもしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 漬物の漬け方や吊るし柿の作り方を教えてもらったり、気分の悪い利用者をお互いが労ったりして、日々の生活を共に支え合っている姿が見られる。また、職員は記録の簡素化や業務の見直しを行い、共に過ごせる時間を多く持てるようにするなど、協働して生活する者として支え合う関係を大切にしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 昔ながらの言葉づかいや方言、停電の時に練炭を使う場合は換気に気をつけること、同じ料理でも生活環境により具材が異なることなど、利用者の豊かな人生経験から生活の技や文化を学んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 担当が一人ひとりに寄り添い、会話の時間を大切にし、お互いの関係を積み重ねながら、思いや希望を把握するように努めている。  <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族からの情報を得るようにする他、できる限り声かけや見守りをする事により、利用者から発せられる情報をキャッチするように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。  <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 利用者2人を職員1人で担当しているが、介護計画作成時には全職員が集まり、気づきや意見を出し合ってケアプランを立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。  <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 変化が生じた場合には見直しを行い、特に退院後の見直しには気を配っている。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 協力医療機関による週4回の往診や週2回の訪問看護など24時間体制が取られており、鼻腔栄養摂取の利用者も継続して生活している。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 今までにターミナルケアを行った実績が1名あり、重度化した場合や終末期のケアは「看取りに関する指針」に基づいて提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 職員が同行して、墓参り、ふるさと訪問、協力医療機関以外への受診などを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 本人や家族が希望するかかりつけ医やその他の医療機関についても、職員が付き添って受診している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 受診に同行した職員や家族から情報を得て共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 「看取りに関する指針」を定めており、早い段階から、利用者、家族、医師、職員が話し合い、全員で方針を共有するよう取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。 早い段階から家族、医師、職員が話し合い、共通した方針のもと連携したケアを提供しており、家族が交替でホームに泊まるなど安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 理念に掲げているように、尊敬の心を持って利用者に接し、そつと見守り、さりげなく支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 職員にはプライバシーの確保を徹底しており、毎日使用する記録は他者の目に触れないように注意し、その他の個人情報は鍵のかかるところに保管している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 プライバシーの確保については、職員会や職員採用時に徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 利用者一人ひとりが希望を出しやすいように、また、本人の意向を汲み取るように努め、買物や散歩など柔軟に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 「利用者のお陰でいろいろな場所に連れて行ってもらえる。」と、職員が話すように、利用者に合わせて生活を送ることをプラスに捉えている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。 献立づくりは利用者の希望を聞き、調理の下ごしらえ、盛り付け、後かたづけなどは利用者が出来ることを職員と一緒に行うようしている。また、週1回のパン屋の移動販売日には、利用者が選んだパンを昼食に並べている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 入浴時間は16時からとなっているが、利用者の希望があればいつでも対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせて入浴支援を行っている。 少なくとも2日に1回は入浴できるようにしており、入浴を拒む利用者には、気分を変えるために言葉をかけたり、気分転換の散歩に出かけたりして入浴を促すようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者の生活歴や聞き取りを基にして、その人の役割や楽しみごとを把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 調理、花壇の手入れ、畑の草引き、鶏の餌やり、カレンダーの日めくりなど、利用者には出来ることは出来るだけ役割を担ってもらうように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 利用者への聞き取りや声かけなどにより、利用者がしたいことや楽しみにしていることを把握し、それを基に日常の暮らしの中で楽しんだり、役割分担が出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 馴染みの駄菓子屋での買い物、喫茶店のモーニング、お墓参り、利用者の希望先へのドライブなど利用者の希望を取り入れた外出支援をしている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>居室や日中玄関に鍵をかけていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 利用者の習慣や傾向を把握しており、利用者が外に出る場合は、職員がそっと見守り寄り添いながら安全を確認している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 開所から5年目を迎えており、地域住民からの見守り、声かけ、連絡してもらえる関係はできている。</p>		
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p><input type="checkbox"/>事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 年2回定期的に避難訓練等を実施しているが、地域住民の参加、協力は得ていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。</p>	○	<p>災害時の避難には、地域住民の協力は欠かせないので、地域住民の参加による避難訓練や夜間を想定した訓練等を実施することを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<input type="radio"/> 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 糖尿病・介護の必要な利用者の摂取量は特に気をつけている。  <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 利用者の希望を採り入れながら献立を作っているが、職員は各ユニットごとに献立と食材を記録して栄養バランスに配慮している。  <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 定期的なアドバイスではないが、知り合いの栄養士に献立表を見てもらうことはある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<input type="radio"/> 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 椅子やソファを所々に配置し、本棚や食器棚は家庭用のものを使用し、オルガンを設置するなど、利用者が使いやすく、馴染みやすく、懐かしい空間づくりに配慮している。また、センサーで明かりが点灯するトイレを設置するなど安全にも気をつけている。  <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。  <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 周りの田園から通り抜けてくる風が心地よく、季節を感じることができ、居間の飾りには、さざんかの生け花やクリスマスツリーを配置するなど季節を体感できるように配慮している。		
30	83	<input type="radio"/> 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 居室には、仏壇、TV、机、筆筒、椅子、写真、大正琴など、利用者の馴染みや好みの物を置き、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 本人の好みの飾り付けを確認しながら、利用者の個性を大切に居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。		